

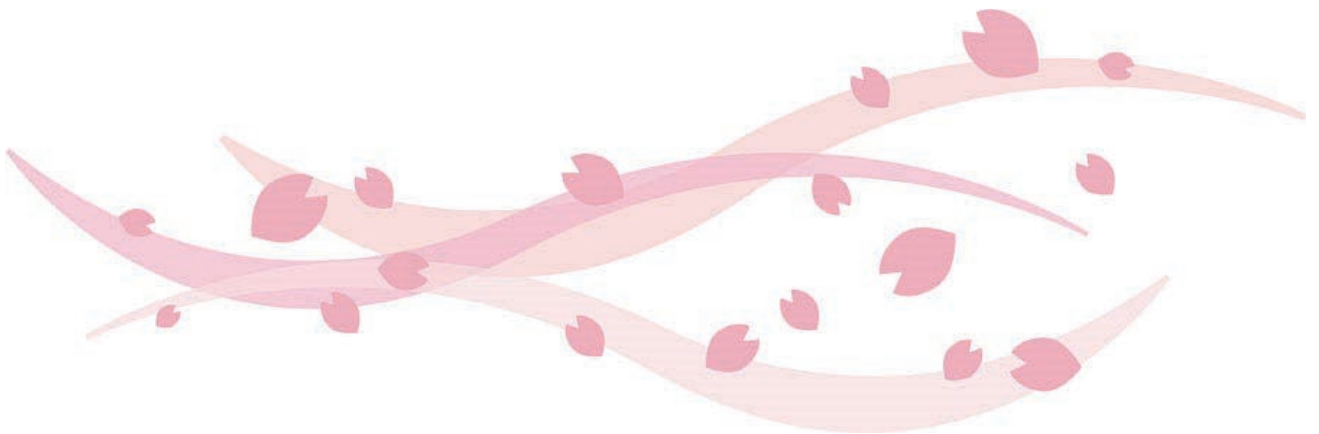
「わたしの望む医療・ケア」

岡山大学病院 緩和支援医療科

ACPワーキンググループ

もくじ

1. 「もしも」の時のために。 ……………	2
2. 病気による経過の違い。 ……………	3
3. ご自身の病気について考えてみましょう。 ……………	4
4. 病気の説明についての希望を考えてみましょう。 ……………	6
5. 「もしも」の時に、自分の代わりに判断してくれる人はだ …… れか考えてみましょう。	7
6. 「もしも」の時について考えてみましょう。 ……………	8
7. 大切にしていることを考えてみましょう。 ……………	10



病気や事故、老衰などにより回復が望めず、意識が低下してきたとき、自分の意向を伝えることが難しくなります。終末期医療や延命治療については人それぞれ考え方や希望は異なり、「自分が望む」医療・ケアと「ご家族が望む」医療・ケアが一致しない場合もあります。最後まであなたの意思を尊重してもらえよう、前もってご家族や医療者にご自身の意向を伝えておくことはとても大切なことです。

事前に話し合うことで、ご家族があなたに変わって重大な決断を迫られた場合にも、あなたの思いを優先して考えることができ、ご家族の負担や迷い、後悔が少なくなるでしょう。

病気の進行や状況の変化にともない、考え方が変わってくる場合もあります。今すぐ全てを決める必要はなく、その都度、話し合いを持ち修正していきましょう。自分1人で決めるのではなく、ご家族や親しい人達の思いも大切に、みんなで話し合いながら決めることをお勧めします。

この冊子はその話し合い「人生会議」の際にご活用ください。

	話合った日	本人のサイン	一緒に話合った人
初回	年 月 日		
更新	年 月 日		
更新	年 月 日		

1. 「もしも」の時のために

ACPとは

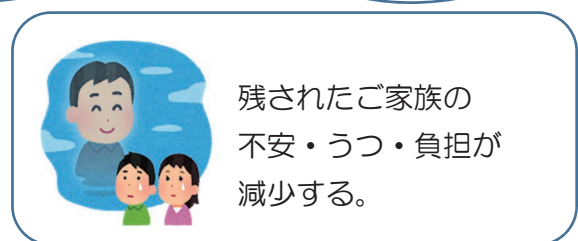
(アドバンス・ケア・プランニング＝人生会議)

もしもの時に備えて、自分が望む医療やケアを受けることができるように、前もってあなたの大切な人やあなたに関わる医療ケアチームと今後の治療・療養について話し合うことです。

〈話し合う内容〉

- あなたの気がかりや意向
- あなたの価値観や目標
- 病状や余命について
- 治療や療養に関する希望
- 意思が伝えられなくなった時に代わりに判断してくれる人 など

【あらかじめご自身の意向を伝えておくことの良い点】

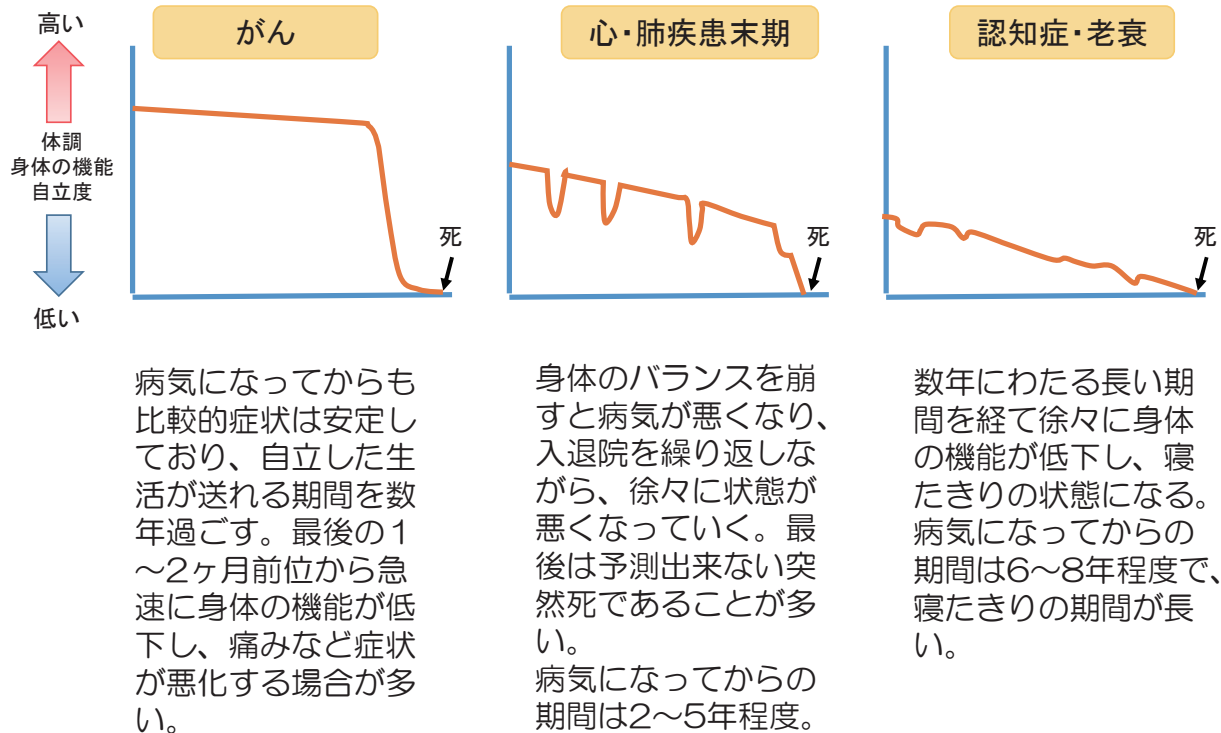


【もしもの時のことを話し合う時期】

- 身体や病気の状態が安定している時
- 病気の経過で何かイベントがあった時（入院、抗がん剤の変更、再発など）

2. 病気による経過の違い

一般的な病気の経過です。必ずこの通りに経過するわけではないですが、これからの治療や療養を考える際に、参考にいただければと思います。



厚生労働省は平成30年に「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」を改定しました。このガイドラインでは最期まで本人の生き方（＝人生）を尊重し、医療・ケアの提供についての話し合いをするために

- 適切な情報提供と説明に基づいて本人が医療従事者と話し合うこと
- 本人による決定を基本とすること
- 医師の独断ではなく、医療・ケアチームによって慎重に判断すること
- 医療・ケアについての話し合いは、自らの意思を伝えられない状態になる可能性もあることから、家族等の信頼できる人を含めて繰り返し行うことが大切であるとされています。

病気によっても経過は異なるため、「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」といって、将来命の危機が迫ったときに備えて、**健康な時（体調の良い時）**から、人生の最終段階をどのように過ごし、どのような医療・ケアを受けたいかを**本人・家族、医療・ケアチーム**と事前に**繰り返し話し合いをもつ**ことを推奨しています。

3. ご自身の病気について考えてみましょう

病名	
今のご自身の病状についてどのように説明を受けていますか？	
	どこに病気があるのか、どのくらい広がっているのか、今行っている治療の目標、今の症状の原因などを書いてみましょう。

これからの治療方針についてどのように説明を受けていますか？

心配におもっていること、気がかりはどのようなことですか？

4. 病気の説明についての希望を考えてみましょう

(当てはまる欄に○を、自由記載欄はあなたの言葉で記載してください。)

1) 病名、病状、治療方針、余命などについて <u>ご自身には</u> どこまで説明して欲しいですか？			
/	/	/	
			病名・病状・治療方針・余命まですべて伝えて欲しい。
			病名・病状・治療方針は伝えて欲しい。
			病名・病状は伝えて欲しい。
			病名のみ伝えて欲しい。
			伝えて欲しくない。(自分でなく家族に伝えて欲しい。)
			今は決められない。
理由			

2) <u>家族・親しい人には</u> どこまで説明して欲しいですか？			
/	/	/	
			病名・病状・治療方針・余命まですべて伝えて欲しい。
			病名・病状・治療方針は伝えて欲しい。
			病名・病状は伝えて欲しい。
			病名のみ伝えて欲しい。
			伝えて欲しくない。(自分だけに伝えて欲しい。)
			今は決められない。
理由			

5. 「もしも」の時に、自分の代わりに判断してくれる人はだれか考えてみましょう

あなたが自分の考えや思いを伝えられない状態になった場合に、自分の代わりに判断してくれる人を決めておきましょう。その方（その方々）と一緒に「もしも」の時のことについて話し合いをしておくことで、その方（その方々）があなたの意思を医療者に伝える際の手助けとなります。あなたの考えや思いを事前に知っておくことによって、ご家族やご友人の心の負担も軽くなります。

（当てはまる欄に○を、自由記載欄はあなたの言葉で記載してください。）

1) もしも、あなたが病気や事故などで、自分の考えや気持ちを伝えられなくなった時に、あなたの代わりに治療やケアについて判断し、医療者と決めてくれる人はどなたですか？

（1人でなくてもかまいません。たとえば妻と長男で話し合って決めてほしいなど複数の人をお願いすることもできます。）

/	/	/	
			配偶者（ ）
			子供（ ）
			きょうだい（ ）
			親族（ ）
			友人（ ）
			知人（ ）
			その他（ ）
			頼める人がいない

理由

2) あなたの代わりに判断して決めてほしいことを、ご本人に伝えてありますか？

/	/	/	
			伝えている
			伝えていない
			これから伝える予定



6. 「もしも」の時について考えてみましょう

(当てはまる欄に○を、自由記載欄はあなたの言葉で記載してください。)

1) もしも、抗がん剤などの病気に対する <u>治療効果が得られなくなってきたら</u> どうしたいですか？			
/	/	/	
			最後まで治療を続けて欲しい。
			できるところまでは治療を続けて、副作用等がしんどくなるようなら治療をやめて、苦痛な症状だけはとってほしい。
			効果がないのであれば、早めに治療をやめてゆっくり過ごしたい。
			セカンドオピニオンを希望する。
			今は決められない。
			その他（
理由			

2) もしも、病状が悪くなったら <u>どこで療養したい</u> ですか？			
/	/	/	
			往診や訪問看護・介護を受けながら、なるべく家族の負担にならない方法が可能であれば最後まで家（自宅・施設）で過ごしたい。
			なるべく家（自宅・施設）で過ごし、家で過ごすのがしんどくなったときは入院したい。
			入院しながら、時々には家に帰れる様にして欲しい。
			在宅は難しいので、最後まで入院していきたい。
			今は決められない。
			その他（
理由			



3) もしも、状態が悪くなり、医療処置を行っても病状の回復や意識・判断能力の回復が見込めなくなった状態になった場合、どのような治療を希望しますか？

/	/	/	
			人工呼吸器、心臓マッサージ等生命維持のための最大限の治療を希望する。
			人工呼吸器等は希望しないが、高カロリー輸液・胃ろうなど、継続的な栄養補給を希望する。
			継続的な栄養補給は希望しないが、点滴などによる水分補給は希望する。
			点滴などによる水分補給も行わず、自然に最期を迎えたい。
			医師と家族で最善の方法を話し合って判断してほしい。 最終的な判断は（ 続柄： ）に委ねたい。
理由			

4) もしも、痛みや苦しさなどの症状緩和のための治療や薬を使っても、どうしても症状が取れない時はどうして欲しいですか？

/	/	/	
			薬をつかって眠らせてもらい、痛みや苦しみを感じないようにしてほしい。
			苦しくても最後まで意識は保っていたい。
			夜だけは薬をつかって寝かせてもらい、少しくらい苦しくても日中は起きて、家族等と話ができるようにしてほしい。
			今は決められない。
			その他（ ）
理由			

7. 大切にしていることを考えてみましょう

ご自身の意思を尊重してもらうために、あなたの人生観や価値観、何を大切に、何を支えにし、どのような生き方を望んでいるのかを知っておいてもらうと良いでしょう。

(当てはまる欄に○を、自由記載欄はあなたの言葉で記載してください。)

1) 人生(生活)で <u>大切にしていること</u> はどのような事ですか？	
	家族と良い関係でいること、一緒に過ごせること。
	仕事が続けられること。
	趣味などが続けられること。
	日常生活が続けられること。
	出来るだけ望んだ場所で過ごすこと。(場所:)
	身の回りのことが自分でできること。
	人に迷惑をかけないこと。
	経済的に困らないこと。
	社会的役割が果たせること。(社会的役割:)
	自然の成り行きに任せること。
	どんな困難も乗り越えていくこと。
	苦痛などなく出来るだけ楽に過ごせること。
	人として尊重されること。
	自分のことは自分で決めること。
	周りの人に重要な判断を任せること。
	信仰に支えられること。
自由記載	



2) 生きがいや生きる支えになっていることはどのような事ですか？

	家族（	）
	仕事（	）
	趣味（	）
	ペット（	）
	人のために役に立つこと	

自由記載

3) これからはどのように過ごしたいですか？どのようなことをしたいですか？
伝えておきたいことは何ですか？



＜人工呼吸器・気管挿管＞

呼吸が止まったときなど、口から気管まで管を挿入して（気管挿管）、人工呼吸器につなげて呼吸を補助する方法です。自分で呼吸ができるようになれば人工呼吸器を外すことができますが、状態によっては難しい場合もあります。



＜心臓マッサージ＞

心臓が止まったときに、胸部（心臓の部分）を強く押して心臓の動きを再開させる方法です。一時的に心臓が動き出すことがありますが、終末期の場合には意識が戻る事はきわめてまれです。



＜高カロリー輸液・点滴＞

普通の点滴より、十分な水分・栄養補給が可能となります。その場合首や足の付け根などの太い静脈から点滴をします。

終末期には体が弱っているため、栄養がうまく代謝されず、水分や栄養が多すぎると体がむくんでしまうため、点滴を控えた方が楽にすごせるでしょう。



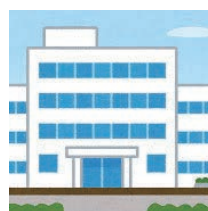
＜胃ろう＞

口から食べられなくなった場合に、胃に穴を開けて管を通し、お腹から水分・流動食、お薬などを注入することができます。胃ろうを作ることで、長期間の十分な水分・栄養補給が可能になります。穴を開けるための手術と定期的なカテーテルの交換が必要です。



＜自然な経過に任せる＞

人工呼吸器や心臓マッサージ、高カロリー輸液、点滴、胃ろうなどを行わず、自然な経過にまかせます。ただし、痛みや苦痛な症状に対してはお薬を使うなどして、できるだけつらい思いをしないように対応してもらうことは可能です。



メモ・自由記載欄

メモ・自由記載欄

公益財団法人 橋本財団 福祉助成事業

発行年：2019 年 第2版

発行元：岡山大学病院 緩和支援医療科

編集：岡山大学病院 緩和支援医療科 ACP ワーキンググループ
野の花プロジェクト

